

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和5年度第3回市史編さん委員会
開催日時	令和6年3月12日(火) 午前10時00分～11時00分
開催場所	伊勢崎市図書館2階集会室
出席者氏名	(委員) 三好委員長、相川委員、青木委員、宮崎委員、前澤委員、里見委員、清水委員、三井委員、栗田委員、村岡委員、新井委員、細井委員、小林委員 (オブザーバー) 新井文化財保護課長、出浦文化財保護係長、横澤埋蔵文化財係長 (事務局) 二上教育副部長、和佐田図書館課長、町田奉仕係長、勢藤市史編さん係長、和久市史編さん係長、
傍聴人数	0人 (公開)
会議の議題	(1) 令和5年度の活動報告 (2) 令和6年度の活動予定について
会議資料の内容	(1) 令和5年度の活動報告 (2) 令和6年度の活動予定案
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>1 開会 2 報告事項 令和5年度の活動報告について 令和5年度の活動について事務局より説明を行った。</p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林多一郎家の調査について、小林家は大正期に県内でトップクラスの蚕種家で資料も残っており、調査成果を新しい市史には載せてもらいたい。 ・シンポジウムについて、第2部のような視点は桐生市史にはない視点である。若い人たちに伊勢崎の良さや歴史を受け継いでいくというのは市史の大きな役割だと思う。これからはそれが大事なので今回のような企画は素晴らしいと思う。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林家の資料調査は現在1,000点以上の資料を整理している。所有者にもご協力いただきながら継続しこの成果は市史に掲載できるようにしたい。 ・シンポジウムはオーソドックスな形のものではない。四ツ葉学園の取り組みをいろいろな場所で成果発表してもらえば、彼らの活動に光が当たるようになる。このような取組をしている若い世代の人達がいずれまた伊勢崎の歴史関係や市史編さんに携わってもらえればなおいいと思い今回お願いした。 <p>委員長</p> <p>子ども達の取組は身近なところに外にもたくさんあると思うが、専門家の皆さんに応援をしていただき励ましていただけるとありがたく思う。教育委員会としてもこういった取組をする子供たちを増やし郷土の誇りを大事に育てていきたいと考えている。</p> <p>委員</p> <p>「パブリックヒストリー」の観点から、地元の高校</p>

	<p>生の活動を聞いて市史に関わってもらおうということになった。実際に四ツ葉学園の生徒さんとお会いしてみると、研究をすることに合わせてプレゼンテーションする力が非常に優れている。また今回チラシのデザインも同校の生徒さんがしてくれた。こういう生徒さん達に関わってもらえれば市史の目的にも合ってくると思う。シンポジウムのトークセッションではとりあえず打ち合わせをするが、あまり規制しないつもりである。生徒さんと部会長のやり取りの中でどのような展開になるかは予想がつかない。どういう意見が出てそれに部会長がどのように答えるか、そこから新しいものが見えてくるのではないかと期待している。</p> <p>委員長 トークセッションには私も大変期待している。高校生の柔らかい頭でいろいろなことを考えていて、それに対して専門家の方々がどんな風に対応していただけるか、おそらく結論めいたことは出ることはないと思う。いろいろな意見をたくさん出すようなセッションになればいいのかなと思う。</p> <p>3 協議事項 『伊勢崎市史編さん基本計画』案について 令和6年度の活動予定案について事務局より説明を行った。</p> <p>委員 各部会の調査研究は事務局が調査を引っ張って行かないと進まない。事務局は行政事務をやりつつ専門的な知識を持った人達とも一緒に調査していかなければならない。事務局の調査活動へのかかわり方をどのようにしていくのか。</p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘があったことは専門委員会をやるたびに議題に上がっている。館林市史の経験からも、本の刊行になると事務局の仕事は膨大な量になる。原稿を集めたり校正したり、印刷会社とのやり取り等相当な労力が必要になるので、この点を見越した上でご支援いただければと思う。 ・埴輪のシンポジウムは新市誕生20周年記念として開催するが、この成果は市史の最初の刊行物として令和7年度に刊行する予定である。全国的にも注目される資料が提供できると思う。 <p>事務局 前澤委員長が館林市で委員と事務局の両方の立場から関わっていらっしやったので、何かあれば委員長に相談できるので大変助かっている。本格的に始めると、想像している以上に色々な問題が起こってくると思うので、またご協力いただきながら進めたいと思う。伊勢崎市については考古資料が膨大に有りかなり時間と人手を要すると思うので、市史編さん係だけでなく文化財保護課の皆さんと連携して進められたらと考えている。近現代資料も膨大にあるので、基礎整理は事務局でもやっていかないといけないと考えている。特に近現代部会長は横浜にお住まいなので、資料をメールでやりとりして調査するな</p>
--	--

	<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>どしたいと考えている。</p> <p>シンポジウムが長時間に渡るので全てを聞くのは大変である。全部聞きたいが時間的体力的に厳しい人への対応は考えているのか。</p> <p>部会長、部会員と相談しながら考えたい。せっかくの機会なので多くの方に参加してもらうことを優先的に考えたいと思う。</p> <p>これだけの皆さんなので日程調整も大変ですが、せっかく講師の方々に話しいただくので多くの方に参加していただけるようなシンポジウムにしていけたらと思う。ご意見がないようでしたら、令和6年度の活動予定について承認をとりたいと思います。</p> <p>*全員の挙手により、令和6年度活動予定について承認された。</p>
--	---------------------------------	--